
お化け

さとう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お化け

【ZPDF】

Z5702D

【作者名】

さとう
りつ

【あらすじ】

マヌケなお化けの話です。こんなお化けなら好感が持てるかも？

ある日、ツヨシは、一人で夜食を食べていた。
すると、突然停電になつた。

家の中は真つ暗だ。

「うーん、困ったな。ライトないし」

いろいろ考えているうちに、急にトイレにこきたくなつた。
「何も見えないけど手探りでいけるだろ」

ツヨシは、慎重にトイレに向かつた。

「暗いと怖いな。なんだかお化けが出そうな雰囲気だ」
そして、やつとの思いでトイレの近くまで来た。
すると、何やら奥の方でうすすら光っているものがある。
よく見ると人間のようだ。だが少し宙に浮いている。

ツヨシは、

「まつ、まさかお化け？」

と思いつ、隠れながら観察した。

しばらくするとお化けらしいものはスッと消えた。

ツヨシは言つた。

「みつ、見ちやつた……」

次の日、ツヨシは夜食を食べながら昨日の事を考えていた。

「あれは、絶対にお化けだ！」
かなり興味があるようだ。

ツヨシは、

「よし、家中を真つ暗にするか……」
と言つてブレーカーを、わざと落とした。

「ポン！」

これで、何も見えなくなつた。

「よし、この時間なら出でうだ

シヨシは、静かにトイレに向かった。

すると、何やらうすらと光っているものを見つけた！

「お化けだ！」

シヨシは、ワクワクしてきた。

お化けは、向こうに向いている。

そこでシヨシは、あらかじめ準備しておいた輪ゴムをポケットから出した。

そして、お化けに向かつて、

「ピーン！」

と飛ばした。

すると輪ゴムは、お化けに、

「パチーン！」

と当たった！

シヨシはササッ！ と隠れた。

お化けは振り向いた。

キヨロキヨロしている。

しばらくすると、お化けは外に出て行つた。

シヨシは、面白くなつてきたので後をつけたことにした。

そして、お化けの進路を予測して先回りした。

シヨシは、ポケットから500円玉を出して道の真ん中に置いた。予想通りお化けがやつてきた。

シヨシは、ササッ！ と隠れて様子を見た。

すると、お化けは500円玉に気づいたようだ。お化けはまず、500円玉を足で踏んで隠した。

顔は半笑いになつている。

そして、周りをキヨロキヨロ見て人がいないのを確認してから、

サッ！ と拾つた。

ものすごく嬉しそうだ。

こいつ、本当にお化けか？

なんてセコイ拾い方をするやつだ。

500円玉をしまつと、お化けは歩き出した。

ツヨシは後をつけた。

すると、お化けは、ある所で止まつた。

自動販売機だ。

「こいつお化けのくせにジュース買つのか？」

と思つたらジュースを買わずに、いきなりおつりの返却口を調べだした！！

「カチャヤ！カチャヤ！カチャヤ！カチャヤ！！」

一生懸命だ。

ツヨシは、笑いを抑えた。

お化けは、お金が無いとわかつたら、さらに移動した。

次はどこへ行くのか？ と後をつけていくと人気の無い墓地についた。

お化けは、全身のうすらした光を消して洋服を着た。どうやら人間になりすましているようだ。

すると、お化けは、なぜか体をポンポンと叩き始めた！ すぐ焦っている！

どうやら、さつきの500円を落としたらしい！

「ポン！ポン！ポン！ポン！ポン！ポン！」

動きがすごく速い！

かなりの俊敏性だ！

しばらくすると、お化けは元気が無くなつた。

どうやら諦めた様だ。

そして、変身したお化けは、ある所に向かつた。

コンビニだ。

お化けは、小走りで店内に入つていった。

何を急いでいるのか？

ツヨシは、外で20分ほど待つた。

しかし、全然出てこない。

なぜだろ？ と思つて、そつとぞいたら何か様子がおかしい。

よく見たら何とビックリ！！

バイトしてるのだー！

「なんでお前お金がいるんだ？　お前お化けだろ？」

そう思いながら、シヨシはコンビニへ入って行った。

すると、お化けは、

「いらっしゃいませ、こんなにちはー。」

とハキハキ言つた。

シヨシは、笑いそうになつたが我慢した。

そして、弁当を一つ選んでレジの方へ行つた。

お化けは、

「温めますか？」

と訊いてきたので、シヨシは内心笑いそうになりながらも、

「はー」

と答えた。

なんじゃ、この会話。

お化けは弁当を温め終わつたら、手で温かさを確認した。

すると、納得いかなかつたのか、また電子レンジに弁当を入れて温めなおした。

きつちりしたやつだ。また、笑いそうになつた。

シヨシは、コンビニを出でていったん家に帰つた。

そして、しばらくなつてから、またコンビニへ行つた。

お化けは、まだいる。

そろそろバイトの終わる時間だつた。

しばらくなつてから、お化けが出てきた。

たぶん墓地へ戻るのだろうと思い、シヨシは先回つした。

そして、1円玉を道の真ん中に置いた。

隠れて待つていると、お化けが来たようだ。

お化けは、1円玉の付近で立ち止まつた。

どうやら氣づいたらしい。

「まさか、拾わないだろ？」

と思つたが、お化けは、お決まりの「じとく足で踏んだ。
顔は半笑いになつてゐる。

そして、キヨロキヨロしながら1円玉をサツ！ と拾つた。
嬉しそうだ。小さくガツツポーズしている。

こいつアホだ。恐怖のかけらも無い。

お化けは、スキップしながら墓地へ向かつた。
そして墓地に着くと、急に何かを飲み始めた。

何だらう？ と思ってよく見たら…………プロテインだ！！

お前は、ボディビルダーか！！

お化けは、プロテインを飲み終えると、腕立てを始めた。

「・・・97・・・98・・・99・・・100！！」

100回もやつたぞこいつ。

「ハア！ ハア！ ハア！」

息が荒い。こいつ本当にお化けか？

ツヨシは、ポカーンとお化けを見ていた。

すると、お化けは、急にツヨシの方を向いた！

そして、目が合つてしまつた！！

「やばい！！」

ツヨシは、危険を感じて逃げ出した！！

お化けは、ツヨシを追いかけてきた！！

ツヨシは、必死に逃げる！！

しかし、お化けが徐々に近づいてくる！！

そして、もうだめか！！

と思つたら、今度は、どんどん距離が離れていつた！

アレッと思つたら、お化けの顔がゆがんでいる。
つらそうだ。

どうやら、わざきの腕立てが効いているいらしか。
情けないやつだ。

お化けは、ぐつたりして道の真ん中で倒れた。
ピクリとも動かない。

ツヨシは、かわいそうになつたので助けてやる」とこした。

「大丈夫か？」

すると、お化けは急にツヨシの腕を、

「ガシッ！！」

とつかんだ！！

そして、

「ははははー！ 引つかつたなーー！」

と言った。

ツヨシは、やばい！ と思つてお化けの頭を、

「ボコン」

と叩いた。

すると、たつた一発でお化けは倒れた。
お化けは死んだ・・・

(おしまい)

(後書き)

たまに来てね！

http://www.muroi1.com/sakmok.h
tm1

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5702d/>

お化け

2010年10月10日07時51分発行